

2020年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年12月24日

上場会社名 株式会社ピクルスコーポレーション 上場取引所 東
 コード番号 2925 URL http://www.pickles.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宮本 雅弘
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理財務部長 (氏名) 三品 徹 TEL 04-2925-7700
 四半期報告書提出予定日 2020年1月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年2月期第3四半期の連結業績（2019年3月1日～2019年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第3四半期	31,410	1.4	1,573	35.6	1,683	31.8	1,155	52.4
2019年2月期第3四半期	30,984	10.1	1,160	5.9	1,277	8.7	758	△2.3

(注) 包括利益 2020年2月期第3四半期 1,138百万円 (48.3%) 2019年2月期第3四半期 768百万円 (△2.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第3四半期	180.63	178.88
2019年2月期第3四半期	118.53	117.74

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年2月期第3四半期	24,647	12,891	51.9
2019年2月期	22,132	11,904	53.5

(参考) 自己資本 2020年2月期第3四半期 12,794百万円 2019年2月期 11,835百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2019年2月期に係る総資産及び自己資本比率については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期	—	0.00	—	28.00	28.00
2020年2月期	—	0.00	—		
2020年2月期（予想）				30.00	30.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年2月期の連結業績予想（2019年3月1日～2020年2月29日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	42,716	5.0	1,853	31.4	1,996	27.8	1,312	42.5	205.07

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社 （社名） 一、除外 一社 （社名） 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年2月期3Q	6,398,000株	2019年2月期	6,398,000株
② 期末自己株式数	2020年2月期3Q	257株	2019年2月期	257株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年2月期3Q	6,397,743株	2019年2月期3Q	6,397,766株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 金額の表示単位の変更について

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。

なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第3四半期連結累計期間についても百万円単位で表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(追加情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善傾向が続いており、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、米中通商問題の長期化や英国のEU離脱問題、日本国内における集中豪雨や台風など相次ぐ自然災害の発生や消費税増税などにより、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、少子高齢化などの影響から市場規模の拡大は見込めない状況のなか、人手不足を背景として人件費及び物流費が上昇しております。また、消費者の安全・安心への関心は依然として高く、FSSC22000やJFS-Bなどの国際規格による質の高い品質・衛生管理体制の整備や、フードディフェンスなどへの取り組みが求められております。一方で、ライフスタイルの変化が進んでおり、「個食」、「中食」や、健康志向など、多様化するニーズへの対応が求められております。消費増税が実施されたことにより、節約志向が強まり消費の減速につながる懸念があり、依然として厳しい事業環境が続いております。

このような状況のなか、当社グループは、㈱ピクルスコーポレーション西日本の佐賀工場が稼働から1年が経過し、本格的に稼働するなど、より一層全国での生産体制の強化を図っております。この北海道から九州にかけての全国ネットワークを活用し、新規得意先の開拓や、既存取引先への拡販に取り組みました。

販売面では、10月に、当社の看板商品である「ご飯がススム キムチ」が発売から10周年を迎えました。これを記念した販売促進活動として、マルチタレントのはなわさんを起用した新しいCMの放送、プレゼントキャンペーンの実施、当社ホームページにおける10周年記念サイトの開設などの施策を展開しました。

製品開発面においても、「ご飯がススム」10周年を記念した「ご飯がススム PREMIUM」を開発しております。その他、既存商品のリニューアルなどを実施するとともに、「ご飯がススム キムチ」味を再現した鍋つゆや焼豚など、他社とコラボレーションした商品の共同開発を行いました。

新規事業として計画しております小売事業及び外食事業を行う㈱OHは、埼玉県飯能市にある「OH!!!発酵・健康・食の魔法」の建設予定地で8月23日に起工式を実施しており、現在は開業に向けて準備を進めております。

売上高は、「ご飯がススム」などのキムチ製品が堅調に推移したことや、「牛角やみつきになる！丸ごと塩オクラ」などが好調に推移したことなどから増収となりました。

利益については、増収効果や、天候が比較的安定したことにより原料価格が安定したこと、佐賀工場が本格的に稼働したことにより利益改善が進んだことなどから増益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は31,410百万円（前年同四半期比1.4%増）、営業利益は1,573百万円（同35.6%増）、経常利益は1,683百万円（同31.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,155百万円（同52.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて2,515百万円増加し、24,647百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金が1,116百万円、㈱ピーネコーポレーションの工場建設工事や㈱手柄食品の増築工事等により建物及び構築物が770百万円それぞれ増加したことによるものであります。

負債については、前連結会計年度末に比べて1,528百万円増加し、11,756百万円となりました。これは主に買掛金が877百万円、長期借入金が589百万円増加したことによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べて987百万円増加し、12,891百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益等により利益剰余金が976百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年2月期の業績予想につきましては、2019年9月18日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,835	3,430
受取手形及び売掛金	3,925	5,042
商品及び製品	266	394
仕掛品	69	76
原材料及び貯蔵品	266	301
その他	147	66
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	7,509	9,312
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,323	5,094
機械装置及び運搬具(純額)	1,435	1,670
土地	6,494	6,506
リース資産(純額)	49	68
建設仮勘定	568	304
その他(純額)	59	54
有形固定資産合計	12,931	13,699
無形固定資産		
のれん	712	635
その他	84	95
無形固定資産合計	796	731
投資その他の資産		
投資有価証券	523	509
繰延税金資産	252	256
その他	118	139
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	893	905
固定資産合計	14,622	15,335
資産合計	22,132	24,647

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,905	3,782
短期借入金	1,450	1,450
1年内返済予定の長期借入金	1,151	999
リース債務	17	11
未払法人税等	393	269
賞与引当金	129	56
役員賞与引当金	61	-
その他	1,806	2,253
流動負債合計	7,916	8,822
固定負債		
長期借入金	1,378	1,968
リース債務	2	23
繰延税金負債	18	14
退職給付に係る負債	402	417
負ののれん	172	143
その他	337	366
固定負債合計	2,311	2,933
負債合計	10,227	11,756
純資産の部		
株主資本		
資本金	740	740
資本剰余金	2,107	2,107
利益剰余金	8,892	9,868
自己株式	△0	△0
株主資本合計	11,740	12,717
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	94	77
その他の包括利益累計額合計	94	77
新株予約権	64	91
非支配株主持分	4	5
純資産合計	11,904	12,891
負債純資産合計	22,132	24,647

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
売上高	30,984	31,410
売上原価	23,697	23,315
売上総利益	7,287	8,095
販売費及び一般管理費	6,126	6,521
営業利益	1,160	1,573
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	4	4
負ののれん償却額	28	28
持分法による投資利益	2	13
受取賃貸料	33	32
事業分量配当金	5	6
その他	65	48
営業外収益合計	140	134
営業外費用		
支払利息	6	7
賃貸費用	17	16
その他	-	0
営業外費用合計	23	25
経常利益	1,277	1,683
特別利益		
関係会社株式売却益	-	6
補助金収入	15	3
特別利益合計	15	10
特別損失		
固定資産処分損	30	29
特別損失合計	30	29
税金等調整前四半期純利益	1,262	1,663
法人税等	503	508
四半期純利益	758	1,155
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	758	1,155

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
四半期純利益	758	1,155
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	△17
その他の包括利益合計	9	△17
四半期包括利益	768	1,138
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	767	1,138
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。